

# にかほ市誕生1周年

昨年10月1日、にかほ市が誕生してから1年が経ちました。市総合発展計画を含め、さまざまな分野で市の計画が策定されてきています。今回、市民の視野で合併1年目をどう感じているかをテーマに市民と市長の対談を行いました。



## 自己紹介後 対談

阿部 合併して1年ですが、最初に思うのは、ふるさと自慢が増えたことですね。共有の財産が増えたというか。

市長 合併によって市民生活がすぐに大きく変わるものではありませんが、旧町単位の有形無形の財産は、にかほ市に引き継がれ、こうした財産はこれからのまちづくりには大きな力になると考えています。ただ、市民サービスを提供していくための財源として国などの財政支援が、国の財政状況の悪化から、国県からの財政支援は年々削減の方向で、市を取り巻く財政環境も年々厳しさを増しています。現在、市の自主財源は3割しかなく、あとは依存財源です。依存財源は、地方交付税や国庫補助金がウエイトを占めています。これが減るのですから、厳しい状況となるのです。(この後市

## 【対談者の紹介】



阿部光俊さん(上町1区)  
社会福祉法人仁賀保中央福祉会「浩寿苑」勤務 36歳  
◇家族構成  
父・母・妻・長男・二男  
(市内在住の30代から無作為抽出による)

長が財政の仕組みを詳しく説明)

阿部 私は、現在福祉関係の仕事をしていますので、福祉政策について何とも良いですか。

市長 先程もお話をしましたが、国の財政事情の悪化や高齢化社会の進展などによって介護保険や障害者支援制度などの見直し、また医療制度の改革に伴って、この10月からは、現役並みに所得のある70歳以上の高齢者の窓口負担も増えるなど、市民の皆さんの負担が増大しているのが大変心配をしています。

市としても保育料軽減や乳幼児医療などの支援をしています。国の制度の改革によって生じる市民の負担増を市単独で軽減や減免をしていくことは財政的に厳しい状況です。たとえば一時的にはできたとしても継続的にやっていくことは無理だと思います。

阿部 私も兼業で農業をしていますので、今のお話しは良くわかります。市長 ここは、TDKを中心とした物づくりの歴史があり、技術の高い方々がたくさんいます。たとえば、仕事をもつてくるとなれば、ひとつの中小企業が交渉して行うのは容易でないと思います。市内の中小企業が力を合わせて、みんなで対応することが必要になると思います。そういった場合に技術の高い方々の力を借りたりして別のものにもチャレンジしていく、それぞれの企業体だけで受注生産していくだけでなく、例えば組織を作って全体が組織の中で受注生産していくとか、これからは、今までは別の分野の仕事も頑張っていく意気込みが必要だと思っています。

阿部 確かに最近福祉関係の法律改正などが多いですね。私の周りでも負担が多くなったとか聞いたりしますが、それが合併して市になったから増額したと勘違いしている方もいます。私は市長のお話しを聞いて、国の財政事情の影響なのだということがわかりました。

市長 ただ、制度的にはいろいろな減免や軽減の制度がありますから、各庁舎の担当職員に相談いただいて、積極的に制度を活用していただきたいと思います。また、行政も創意工夫を重ね、合併の効果を最大限活用しながら行政経費を削減して、浮いた財源を活用し、市民サービスの維持、向上に努めていきたいと考えています。

阿部 市長もそろそろ1年になりますけど、市長の職は大変でしょうし、お忙しいでしょう。

阿部 いろいろな意味での問題意識は大切だと思いますね。市長 私を含め、市役所職員にも問題意識を持って物事に対応してもらいたいと思っています。

市長 この1年間は本当に多忙でした。旧町単位の行事は、市に引き継がれましたし、各地区の行政懇談会も含めていろいろな催しにご案内をいただきましたが、日程調整をしてもどうしても出席できず、代理出席となったことも多々ありました。ご案内をいただいて、大変申し訳なくお詫びいたしますが、できる限り日程調整を図りながら出席したいと考えておりますので、市民の皆さんにはご理解をお願いしたいと思います。



阿部 例えば具体的にどのようなおことをお考えですか。

市長 農業では、まだ米の値段が安いでしょう。仮渡金が1万2千円くらいでしょう。2万円台だったのが、農業従事者、後継者がいないなど大変厳しい中で来年度から品目的横断経営安定対策という新しい制度が始まります。おそらく戦後の農地改革

阿部 例えれば具体的にどのようなおことをお考えですか。

市長 農業では、まだ米の値段が安いでしょう。仮渡金が1万2千円くらいでしょう。2万円台だったのが、農業従事者、後継者がいないなど大変厳しい中で来年度から品目的横断経営安定対策という新しい制度が始まります。おそらく戦後の農地改革以上の改革です。一定の面積の規模がなければ国などからの財政的な支援を受けることができなくなります。二戸当りの農家が4ヘクタール以上、集落営農であれば20ヘクタール以上です。行政としても農業が将来に向



## 対談を終えた阿部さんから一言

最初は緊張しましたが、市長は私が思っていたよりもとても気さくな人でした。何よりも市に関するすべてのことが頭に入っているのには驚きました。たくさんのお話しができて関係者の皆さんには感謝しています。